

校長だより あおすげ

令和5年6月21日号

校長 竹内 重幸

<水泳学習が始まりました>

6月19日(月)にプール開きができました。4年ぶりの水泳学習が始まり、トップを切って3年生からプールに入りました。プールに響く子供たちの歓声は、学校の夏の風物詩のようなものです。「戻ってきたなあ」と感慨深いものがありました。シャワーを浴びる時は「地獄のシャワーだ。」と言いながら、その冷たさも楽しんでいるように見えました。水に入ると、浮遊する感覚を楽しんでいました。5年生からは、1年生の時に入ったプールの思い出や「こんなに浅かった?」と言う感想も聞かれました。

さて、日本は海に囲まれています。また、山が海に迫っている土地も多く、川が急流となる特徴があります。令和4年度夏季(7・8月)、の水難事故は、459件ありました。死者・行方不明者は、228人で、このうち中学生以下は9人と発表されています。また、今年4月には、富山県高岡市のフィットネスクラブのプールで、水泳教室に参加していた5歳の男児が沈んでいるのが見つかり、その後死亡が確認されたという報道がありました。

4年生までは、学校での水泳学習は初めてとなります。安全面を第一に、水泳学習を実施できるよう万全を期したいと考えております。加えて、着衣泳は行いませんが、着衣泳の学習内容は指導していきます。保護者の皆様には、水泳学習をする際のお子様の体調を確認していただき、水泳学習ができる体調であれば、プールカードに確認印をお願いします。

<心肺蘇生法研修>



教員にとっても4年ぶりの水泳学習となります。本校での水泳学習を経験していない教員も増えてきたことから、何度も会議を開いて、環境面や学習の流れの確認、環境整備、そしてリスクマネジメント・クライシスマネジメントなど準備をしてきました。また、プール指導が初めての教員は、佐倉市教育委員会の研修に参加し、臼井スイミングを会場に、実技の研修を受けました。

左の写真は、志津消防署の隊員を招いて、AEDの使い方を含めた心肺蘇生法の研修を全職員で受けている様子です。蘇生相手は人形ですが、心臓マッサージやAEDの装着の作業をしていると、手に汗握る感覚になります。命を預かる重責を感じる研修となりました。志津消防署の方からは、「①何かあった時には、躊躇なく連絡をすること。②到着までの処置については、本日の研修内容を着実に実施すること」の指導をいただきました。

